

# 憶 い 出

前東京都立烏山工業高等学校長

2 代会長 小 野 軍 操

一都七県にまたがる本研究会が31年2月安田工業高校で結成されてから10周年を迎えたことはほんとうに慶しいことです。結成当初の60余校が100余校に増大し、会員数は正に倍増となり、その業績は中央に在ることに恵まれているとは云え全国工業高等学校機械科の索引車の役を果たしていることで明らかです。懐古趣味ではないが本研究会の業績の憶い出を記して、今後の発展の糧になればと老婆心を示したいと思います。

## 1. 新基準に木型工場を廃止したこと。

39年度から実施された実験実習施設・設備の新基準の原案は本研究会で作製されたものである。即ち33年に全国工業高校長協会から機械科の改正基準を作る依頼を受けた。10余名の専門委員を構成してこれに当たりいろいろ苦労が多かった。その一つの問題に木型工場を廃止することがあった。

昔から機械科には木型工場は欠くことのできないものとされた施設であった。併し戦後高校3ヶ年で僅か15単位に満たない実習時間でむづかしい木型製作の実習は不可能であるし、たとえ実施しても中学校の技術科に毛のはえた程度のものに終るのでは全く無意味なことである。木型の理解については鑄造実習で十分指導可能である。協会を通して全国9ブロックの機械科代表の先生に集って頂き、検討してもらった時も、木型製作実習を実施している歴史ある学校では、工場並びに実習

教師を現有している関係上、まあ仕方なしに時間に組入れているわけで、廃止には賛成であった。このようなことから心強く木型工場を廃止することができた。

## 2. 専門部会を発足したことについて

ご承知のように機械科の各科目について深く精通することは困難なことである。従って各専門科目に分れてそれぞれの部門で研究し、運営するように構成した方が業績を挙げることができるのではないかというのが一つの理由であった。

次に校長協会から依頼される仕事が増え、多くなって来た。それまではいわゆる場当たり式で、仕事に当たる先生は常に同じ顔ぶれになってしまい多忙な上に多忙が重なり、本務の学校の仕事に不都合を来すようなことになる。それで専門部会を構成して、各部からの代表者によって仕事に当たるというのが能率的であることがもう一つの理由であった。

このような理由で35年頃に 1. 原動機、2. 設計・製図 3. 工作・実習、4. 材料、5. 計測、の5部門の専門部会をつくり、各会員にそれぞれ所属して頂くようになったのである。

以上二つのことがらを記したが会員の諸兄にはいたずらに旧勢に押されることなく、それぞれの専門分野で研究して立派な機械工業教育にご尽力くださることを祈ります。